

# 留学体験レポート

アメリカコース

氏名 高橋 叶

## 1.はじめに

私は平成 28 年度 8 月 24 日から平成 28 年度 12 月 18 日までの約 4 ヶ月間、アメリカのミズーリ州にあるノースウェストミズーリ州立大学に於いて、新潟国際情報大学が主催する派遣留学制度に参加しました。そこで得た経験は私にとって初めてのことばかりで、とても新鮮でした。本レポートは主に 4 つの事柄を取り上げるとともに、最終項目では本制度に参加して実際に得たこと、また今後活かしていきたいことなどに主眼を置いて纏めていくことにする。

## 2.アメリカ初日

ノースウェストミズーリ州立大学の寮に到着した時間は夜中だった。入室すると、そこではルームメイトとなる人が睡眠を取っていた。だから私は起こさないようにして荷物を開けることにした。しかし、手元が暗かったので電気をつけてみることにした。電気をつけてみるとアメリカ人ではない人だと分かった。ノースウェストミズーリ州立大学にはアメリカ人の他に様々な国の人たちが滞在しているということが分かったが、私の予想以上にこの大学は国際色豊かであることを後々把握することになる。とても緊張した初日だった。疲れもあり、それ以上に不安と期待が私の気持ちを駆り立て、初日は上手く寝ることができなかった。これが私のアメリカ生活初日の出来事である。

## 3.大学での暮らし

寮の一階には卓球台とビリヤード台が設置されており、自由に遊ぶことが出来た。毎晩誰かしらが卓球をしていたので、私は良く一緒に遊んだりしていた。大学には図書館があり、訪れてみれば私の表現を理解できると思うが、芸術家がデザインしたような視覚効果を狙った大きな建物である。中にはスターバックスコーヒが営業しており、本を閲覧しながらコーヒーなどを飲むことが許されていた。冬はとにかく寒いので、暖かい格好が必須である。寮から教室まではそう近くはないので、風邪などをひかないように注意が必要である。まだまだ、良いところは説明しきれないほどあるが、後は行ってからの楽しみということで説明は省かせてもらうことにしたい。

## 4.ESL クラス

ESL では初めにクラス分けテストが課され、その結果によって二つのクラスに分かれる。取り分け身構えて受けなければならないような難しい授業はないが、毎回出席するということと、毎日課される課題をこなしていくことが最も大切なことである。

## 5.FIS ファミリーとの交流

FIS ファミリーは留学生二人に対して 1 家族がつくというものである。私が言った家は子どももいてとても楽しく過ごせた。Thanksgiving という 11 月の後半の約 5 日間で、短

い期間であったが、アメリカの家庭で過ごすことを通じて、私はとても新鮮な気持ちを得ることができた。しかし、楽しいだけではない。言語の違いという根本的な問題に直面したとき、言い換えれば、言いたいことが言えないときなどはすごく大変である。しかし、言いたいことが言えない時に言い換える能力を発揮することはすごく大切なことであるし、語学力の向上につながったように思えた。私はホームステイという経験を通して、言えなかった気持ちも言い換えることによって伝えることを学んだ。

#### 6.おわりに

私は留学という経験を通じて、できるだけ簡単に話すべきであるということ学んだ。さらに、英語では会話する際に、出来るだけ難しい表現や単語を使うことを抑え、誰にでも理解ができる言葉や表現を使用することは大切なことであると感じた。また、会話する上で発音は大切である。従って私は正しい発音で要点を押さえ、出来るだけ簡単に話すことは重要であることを学んだ。そして特に、大学や寮に滞在している学生と積極的に接する中で、使用言語の違う初対面の外国人に接することは難しいことであると再認識した。

最後に、私のアメリカ留学に関わった全ての教職員及び、関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。